

活動組織の広域化を行って

(既存の6組織が一つの広域組織になった事例紹介)

出雲市 久多美はやさめ会

久多美はやさめ会（出雲市）位置図



久多美はやさめ会

佐藤 (H28~H32)
面積 12.0ha

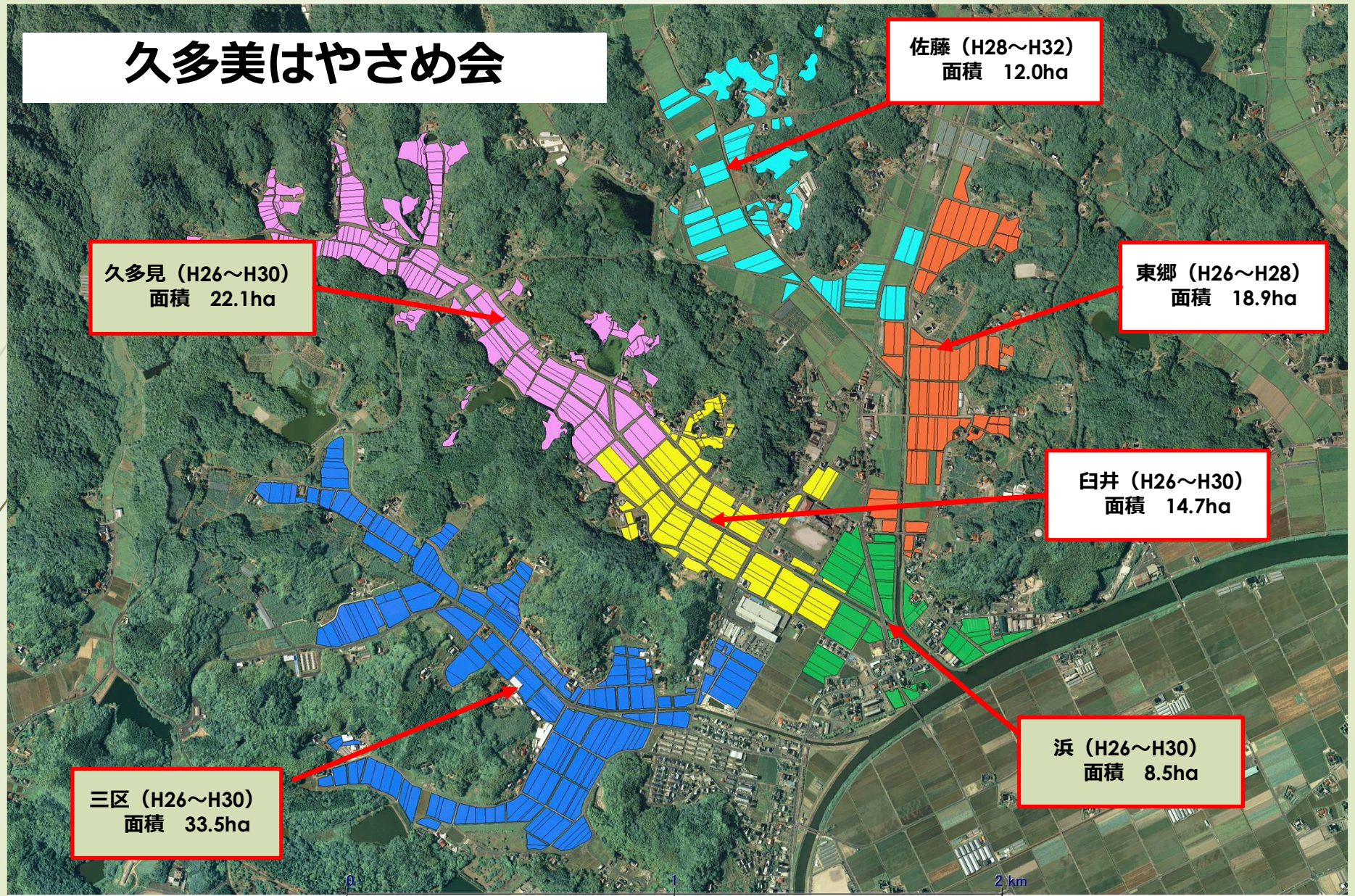
久多見 (H26~H30)
面積 22.1ha

東郷 (H26~H28)
面積 18.9ha

臼井 (H26~H30)
面積 14.7ha

三区 (H26~H30)
面積 33.5ha

浜 (H26~H30)
面積 8.5ha



■ 説明項目

1. 広域化の経緯
2. 活動の進め方
3. 広域化してよかったこと

■ まとめ（課題等）

1. 広域化の経緯

① 平成26年

- ◆ 自治会や農業委員から「久多美地区全域で多面的機能支払いに取り組もう！」との声上がり会合を重ねたが、実施していない集落の同意が得られず断念
- ◆ 5組織は面積の合計が100ha（当時の広域組織要件）に満たないため見合わせ

② 平成28年

- ◆ 国が広域化を推進する中で、「第1段階は、各活動組織の取決め（日当単価、活動内容等）は、統一せずに従前のままでよい。」との方針が示される。
- ◆ 平成28年度から佐藤集落が新規で立ち上がり、**広域要件の100haをクリアー**
- ◆ 平成28年度に東郷集落が活動終了年度を迎える。

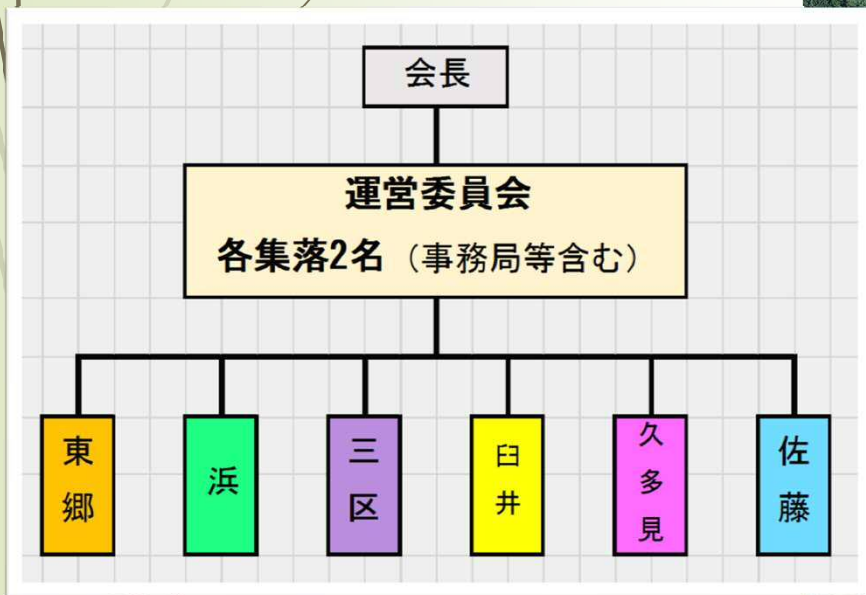
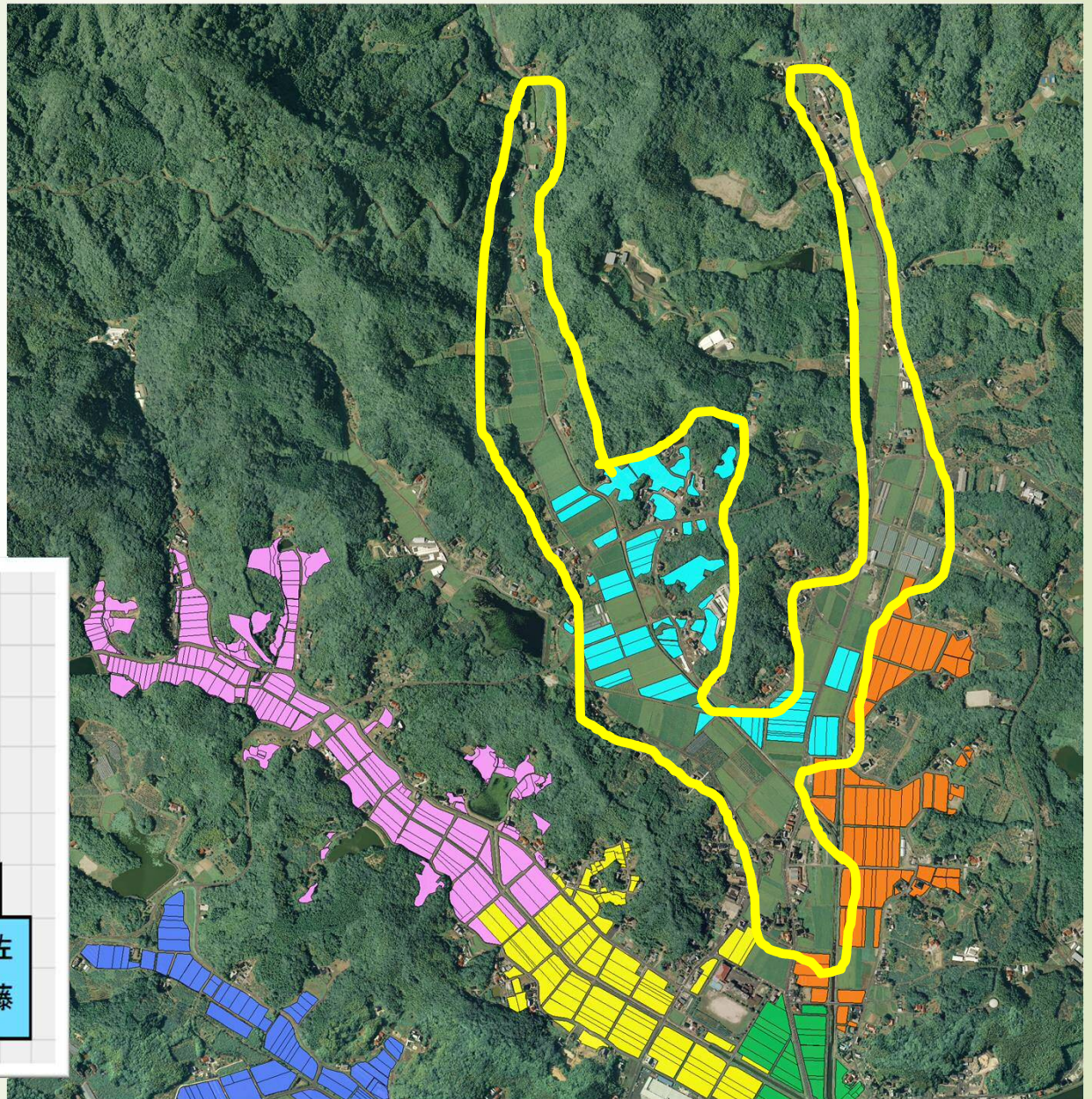
（従来の活動組織は、事務や活動の負担が軽減すること等を説明し）

「既存の6組織が合併する」ことで広域組織化を決定（H28年12月）

③ 平成29年

- ◆ 会の名称、役員、運営委員（旧組織各2名）、運営方針、取決め事項等決定
- ◆ 平成29年6月19日「久多美はやさめ会」設立委員会

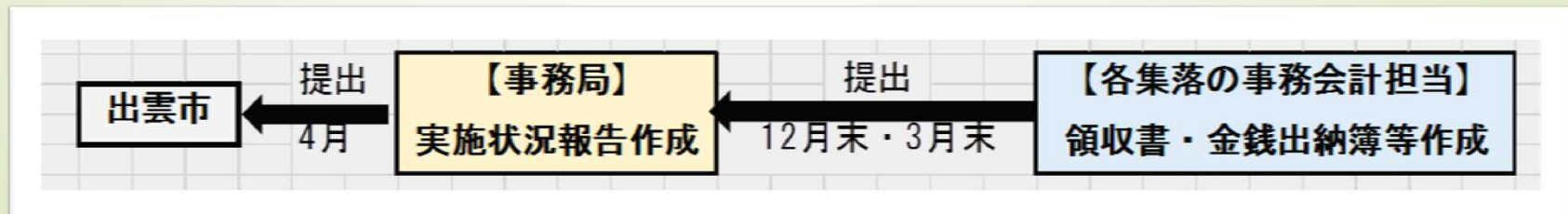
H26年の未実施の範囲



2.活動の進め方

①農地維持活動、資源向上活動（共同）

- I. 活動は、**旧活動組織（集落）単位に**従来からの活動を引き続き実施する。
（従来から旧組織単位に行っている、点検・機能診断や計画策定等も実施）
- II. 必要に応じ「**運営委員会**」からの助言を受ける。
- III. 各集落の**事務会計担当は、活動を記録し日当等の支払い**を行う。
- IV. 各集落の事務会計担当者は、領収書・通帳・金銭出納簿等を取りまとめ、**12月末及び3月末までに**事務局へ提出する。
- V. 事務局は、提出された資料をとりまとめ、事務支援システム「助さん」活用し、**実施状況報告を作成**し市へ提出する。



②農地維持活動と共同活動の交付金の配分

- I. 交付額②の4%③を事務局に配分し、96%③を各集落の面積割合④で按分
- II. 事務局は、各集落の通帳（旧活動組織の通帳）に算出した配分額を振込む
- III. 各集落は、活動に基づいて通帳から日当等を支払う

集落名等	H29繰越額 (円)①	交付額(円) ②	配分割合 ③	面積割合 ④	配分額 ②*③*④
東郷	268,841		96%	16%	558,927
浜	71,639			7%	249,765
三区	4,667			38%	1,347,811
臼井	430,387			12%	433,095
久多見	293,471			18%	624,185
佐藤	70,448			9%	335,337
事務局	201,327		4%		147,880
合計	1,340,780	3,697,000			3,697,000

③ 資源向上活動（長寿命化）

- I. 長寿命化交付金は、**予算を一本化**し「はやさめ会」全体で取組む（従前は3集落）
- II. 活動内容は、集落から要望があった個所を**運営委員で点検し確認**（H29年7月）
- III. 点検に基づき**実施計画（別表）を運営委員会で決定**（H29年9月）
- IV. 業者選定は関係集落が行うが、その他の**事務については事務局と運営委員**が行う。
- V. 直営工事については、関係集落が主体的に実施する。
- VI. 実施計画は、実績等に基づき**事務局で見直し**を行い、その都度**運営委員会で決定**



長寿命化活動実施計画(実績)

集落名	工事名	数量	概算工事費 (千円)	活動名	年度計画				
					H 29年度	H 30年度	H 31年度	H 32年度	H 33年度
東郷	東下舗装	L=100m	1,250	農道舗装	1250				
	日の出舗装その1	L=100m	1,250	農道舗装			1250		
	日の出舗装その2	L=50m	750	農道舗装				750	
小計	予算額(650千円*5年=3,250千円)		3,250						
浜	水路張コン(鳥居松)	L=60m	700	水路嵩上げ		700			
	水路張コン(保育所)	L=60m	600	水路嵩上げ				600	
	藤井川農道舗装	L=20m	300	農道舗装					300
小計	予算額(320千円*5年=1,600千円)		1,600						
三区	天神川水路補修	L=12m	1,460	水路破損補修	1460				
	中組水路補修	L=200m	2,440	水路老朽化補修			2440		
	果樹園農道舗装	L=200m	3,900	農道舗装					3900
小計	予算額(1,560千円*5年=7,800千円)		7,800						
臼井	ため池排水路	L=30m	520	水路の更新	520				
	集会所排水路	L=100m	2,080	水路老朽化補修				2080	
小計	予算額(520千円*5年=2,600千円)		2,600						
久多見	ため池下農道舗装	L=40m	690	農道舗装	690				
	西谷池シート補修	1ヶ所	1,800	漏水箇所補修		1800			
	水田沈下対策	4か所	1,260	客土		400	510	350	
小計	予算額(750千円*5年=3,750千円)		3,750						
佐藤	排水路底張り	L=120m	1,500	水路の老朽化補修		1500			
	農道舗装	L=30m	500	農道舗装				500	
小計	予算額(400千円*5年=2,000千円)		2,000						
合計	予算額(4,200千円*5年=21,000千円)		21,000		3,920	4400	4200	4280	4200

各集落の予算額は、
集落の年交付額の
5年分を基本とす
る。

施工順序は、各集
落が出来ただけ均
等になるよう決定

3. 広域化してよかったこと

① 農地維持活動、資源向上活動（共同）

- I. 実施要件（農村環境保全活動、多面的機能増進活動）等の達成が容易
- II. 多様な人材と情報の共有化で活動が多様化（持越額の減小）
- III. 担い手農家の声が活動に反映
- IV. 事務局との連携により各集落の事務も改善
- V. 目指す方向性が固まり地域の連帯感や一体感が高まる
- VI. 広域組織で傷害補償保険一括加入



② 資源向上活動（長寿命化）

- I. 組織一本化により集中的に投資→効果早期発現
- II. 事務局が一手に行うため事務も効率的



■ まとめ（課題等）

- I. 事務局や運営委員の後継者の育成
- II. 広域化に伴う事務局の負担増→事務の大幅な簡素化
（現場説明等の提出資料削減、活動計画の変更の見直し等）
- III. 各集落事務の一層の効率化（日当等の様式統一）
- IV. ほ場整備から35年程度経過→施設が老朽化（要望に対応できない）
- V. 高齢化により耕作者が年々減少→農業法人等の担い手農家の負担大
（多面的機能支払いを実施していない集落への働きかけ）